

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体理事長 半田 晴久

科学技術部会長 中島 稔

両団体専務理事 清原 淳平

環境技術委員会のお知らせ (第369回)

日時 令和2年10月22日(木) 午後1時半～4時

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付協のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第5会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 紹介 南川秀樹元環境事務次官の経歴紹介 清原淳平専務理事
挨拶 環境技術委員長就任挨拶 南川秀樹元環境事務次官
歓迎の辞 中島稔理事・科学技術部会長兼新エネルギー委員長
議題 1) 当面、採り挙げるべき環境諸課題
南川秀樹元環境事務次官
2) 『環境技術関連ニュース NO. 191、192』
解説 中島稔科学技術部会長

報告 去る7月27日開催の第368回環境技術委員会は、中島稔科学技術部会長が議長を務め行われました。まず、中島部会長より「環境問題について、昨今、想うこと」と題して開会挨拶がありました。2015年に、国連でSDGs(持続可能な開発目標)が定められた。その中に、気候変動に対する具体的な対策や、陸海の環境保全も含まれている。つまり、企業には、利潤追求のほかに、環境保全に資する役割も求められているのだ。

次に、清原淳平専務理事より、南川秀樹元環境事務次官の経歴紹介

がありました。続いて、南川元事務次官より、「我が国の近年の地球温暖化対策の現状と今後のあり方」について解説がありました。地球温暖化は、本来太陽から受けたエネルギーを放出するところ、温室効果ガスによって地球内に留まることによって起きる。温暖化で気温が上昇すれば、陸や海から水分が蒸発し、雲となり、雨量が増える。最近の異常気象と地球温暖化とは深い関係にある。そして、温室効果ガスの4分の3はCO₂が原因である。CO₂の削減は国際的な課題である。私が事務次官を務めていた時に参加したCOP16の席で、世界平均気温の上昇を2℃以内に抑えるため、温室効果ガスを大幅に削減することで合意し、その後パリ協定につながった。目標達成には、エネルギー消費量の削減、エネルギーの低炭素化、エネルギーの有効利用の3本柱を中心とした大幅な社会変革が必要だ。それには革新的イノベーションを起こす必要がある。これまで、太陽光発電、太陽電池などで日本は中国メーカーに完全に後れを取ってしまった。洋上風力発電でも同じ轍を踏みつつある。品質は中国メーカーと変わらないのに値段は倍以上では売れるはずがない。元をたどれば教育の問題にもつながる。私の印象では日本の大学の研究力は中国にかなり遅れを取っている。原発も脱炭素に有効な技術だが、原発反対の意見が強く、再稼働ができない。原発の技術が後進に継承されなくなることを危惧している。

次に、中島稔科学技術部会長より、『環境技術関連ニュース No.190』の解説がありました。今回は、○環境白書が閣議決定。地球温暖化により深刻化する災害を「気候危機」と表現。○南極の氷が溶けている原因は暖かい突風だったと判明。○ロシアシベリアで山火事が大量発生。○コロナの影響で大気汚染が急減し、水質も改善したとの報告。○下水汚泥を農業にも利用する動き、○外出自粛の影響でプラごみが急増、都内や横浜では1割強増加。○レジ袋有料化は、消費者の行動をどう変えていくか?などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費千円にご協力をお願い申し上げます。

次回、10月22日(木)の環境技術委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の当日会費は二千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587

公益財団法人協和協会 03-3581-1192 時代を刷新する会 03-3272-4320

ホームページ <http://www.kyowakyokai.or.jp> Eメール shigeta@jidaisassin.jp